

以下のリストは、特定の製品に適用される追加の利用条件を示す。個々の製品名の後に示される数字は、当該製品に適用される利用条件の番号を表す。ここに示す利用条件は、本契約を補足するものである。各利用条件の具体的な内容は、製品リストの後に記されている。注文関連ドキュメントで特に断りのない限り、エクステンション製品の利用条件は、対応する製品の利用条件に準拠する。

デスクトップ製品

- ArcGIS Desktop (Advanced、Standard、または Basic) (26)
- ArcGIS Earth (20、65)
- ArcGIS Explorer Desktop (20)
- ArcGIS for AutoCAD (20)
- ArcPad (13)
- ArcReader (20)
- ArcGIS for Personal Use (3、26)

サーバー製品

- ArcGIS Enterprise
 - Basic (17)
 - Standard または Advanced (17、21、23、31)
 - Workgroup Standard または Advanced (21、23、28、29、30)
 - ArcGIS GIS Server (Standard または Advanced) (31)
 - ArcGIS GIS Server Basic (39)
 - ArcGIS GIS Server Workgroup (Standard または Advanced) (28、29、30)
 - ArcGIS GIS Server Workgroup Basic (39)
 - ArcGIS for Maritime: Server (2)
 - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、および ArcGIS GeoAnalytics Server (4)
- Esri Business Analyst for Server
 - Workgroup (28、29、30、31、39)
 - Enterprise (31、39)
- World Geocoder for ArcGIS Basic (67)

開発者ツール

- AppStudio for ArcGIS Standard (11、16、19)
- ArcGIS Runtime SDK for Android、iOS、Java、macOS、.NET、Qt、または WPF (16、19)
- ArcGIS Runtime for Android、iOS、Java、Mac OS X、.NET、Qt、または WPF
 - Lite (15)
 - Basic または Standard (1、15、18)
 - Advanced (15、18)
- ArcGIS Engine Developer Kit およびエクステンション (16、19、22、26)
- ArcGIS Engine for Windows/Linux およびエクステンション (15、22、26)
- ArcGIS Web API for JavaScript (16、64)
- ArcGIS Developer Subscription (24、26、77)
- Esri CityEngine SDK および Procedural Runtime (19、84)
- Esri File Geodatabase API (47)

モバイル

- Navigator for ArcGIS (14)

その他

- ArcGIS Hub (85)
- ArcGIS Indoors (86)

Online Services

- ArcGIS Online Developer Deployment Subscription は ArcGIS Developer Subscription からご利用になれます。
 - + 無償サブスクリプション (66、68、75、76、79、81)
 - + 有償サブスクリプション (66、68、75、76、79)
 - 教育プログラム (無償または有償サブスクリプション) (66、68、70、71、72、73、75、76、79、81)
 - NGO/NPO、プレス/メディア プログラム (無償または有償サブスクリプション) (66、68、70、71、72、73、75、76、79、81)
- ArcGIS Online のサブスクリプションは、以下の複数の販売プログラムで入手可能。
 - 商業販売、エンタープライズ契約、および政府プログラム (66、68、69、70、77、78、82)
 - 教育プログラム (66、68、69、70、71、78、81、82)
 - 非営利プログラム (66、68、69、70、71、78、81、82)
- 公的 プラン
 - 商業販売、エンタープライズ契約、政府、NGO/NPO、プレス/メディア プログラム (66、68、71、72、73、74、75、76、80、81)
 - 教育プログラム (66、68、71、72、73、74、75、76、80、81)
- AEC/ArcGIS Project Delivery Subscription (83)

利用条件:

1. ダイレクトコネクションによるエンタープライズ ジオデータベースの編集には使用できない。
2. ナビゲーション用途には使用できない。
3. 個人の、非商用使用に対してのみ使用許諾される。
4. ArcGIS Enterprise Workgroup と併用する場合、
 - 4 コア サーバー1 台に限定される。
 - 独立した別のマシンにインストール可能。
- 5-10. 未使用。
11. AppStudio for ArcGIS Standard で構築されたアプリケーションは、ArcGIS Runtime Standard Level の利用条件に従うものとする。
12. 未使用。
13. 二重用途ライセンスとして使用が許諾される。
14. ナビゲーション目的での使用が許可される。
15. デプロイメント ライセンスとして使用が許諾される。
16. お客様は SDK または API を使用して付加価値アプリケーションを作成し、輸出規制で禁じられていない場所で使用するエンドユーザーに対して、当該付加価値アプリケーションを配布およびライセンス付与できるものとする。
17. お客様は本製品に含まれる Oracle JDBC Driver またはそのドキュメンテーションを再配布してはならない。Oracle は本契約の第三者受益権者である。
18. デプロイメント ライセンスは、独立したアプリケーション用のマシン 1 台の付加価値アプリケーション 1 つにつき 1 つである。

19. ライセンスを、インターネットベースまたはサーバーベースの付加価値アプリケーションの開発に使用することはできない。
20. 再配布ライセンスとして使用が許諾される。
21. 指定ユーザーライセンスの追加利用規約については、 <http://www.esri.com/legal/software-license> マスター契約を参照すること。
22.
 - a. 1 台のマシン上で ArcGIS Engine アプリケーションを実行する権利を取得するためには、エンドユーザーは、ArcGIS Engine for Windows/Linux ソフトウェアまたはその他の ArcGIS Desktop ソフトウェア (Basic、Standard、Advanced) のいずれかのライセンスを取得しなければならない。
 - b. ArcGIS Engine 付加価値アプリケーションを実行する場合、ArcGIS Engine for Windows/Linux エクステンションを ArcGIS Desktop ソフトウェアと組み合わせて使用してはならない。エンドユーザーは、自身のみが使用する場合に限り、1 台のマシンに複数の ArcGIS Engine 付加価値アプリケーションをインストールすることができる。
23. システム間通信
 - a. お客様は、Basic サービス ログインを使用して、ArcGIS Enterprise からお客様の組織内にある他の第三者作製エンタープライズ ビジネス システムに対して、一方向の読み取り専用の通信を行うことができる。お客様は、Esri が実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、Viewer 指定ユーザーの資格情報またはレベル 1 の指定ユーザーの資格情報を Basic サービス ログインのために使用できる。Basic サービス ログインのために使用される個別 Viewer 指定ユーザーの資格情報またはレベル 1 の指定ユーザーの資格情報は システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
 - b. お客様は、Standard サービス ログインを使用して、ArcGIS Enterprise とお客様の組織内にある他の第三者作製エンタープライズ ビジネス システム間で、双方向の読み書き可能な通信を行うことができる。お客様は、Esri が実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、Editor (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル 2 の指定ユーザーの資格情報を Standard サービス ログインのために使用できる。Standard サービス ログインのために使用される Editor (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル 2 の指定ユーザーの資格情報はシステム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
24. ソフトウェアは、プロトタイプ付加価値アプリケーションの開発、テスト、デモンストレーション、およびマップ キャッシュの作成のみを目的として使用できる。お客様は、付加価値アプリケーションとマップキャッシュを、ArcGIS Enterprise ステージング サーバー ライセンスおよびデプロイメントサーバーライセンスで使用できる。Builder 以上のプランを契約している ArcGIS Developer Subscription 契約者が使用する目的で、ソフトウェアおよびデータを複数のマシンにインストールすることができる。他のすべてのソフトウェアは、単独使用ライセンスとして使用が許諾される。
25. 未使用。
26. ジオデータベースへのお客様のデータの保存は、10 ギガバイトに制限される。
27. 未使用。
28. ArcGIS Enterprise Workgroup または ArcGIS GIS Server Workgroup 以外のアプリケーションの同時使用はエンドユーザー10名に制限される。この制約事項には、ArcGIS Desktop ソフトウェア、ArcGIS Engine ソフトウェア、および ArcGIS Enterprise Workgroup または ArcGIS GIS Server Workgroup ジオデータベースに直接接続する第三者作製アプリケーションの使用が含まれる。ウェブアプリケーションからの接続数には制限はない。
29. ソフトウェアには、サポートされるバージョンの SQL Server Express が必要である。サポートされるバージョンは、製品のシステム要件とともに Esri ウェブサイトに掲載されている。
30. お客様のデータの使用は、最大 10GB に制限される。コンポーネントはすべて、1 台のサーバーにインストールしなければならない。

31. フェイルオーバー ライセンスが含まれる。
32. 未使用。
- 33-38. 未使用。
39. ArcGIS GIS Server Basic および ArcGIS GIS Server Workgroup Basic では、ArcGIS GIS Server に含まれている編集機能は使用できない。
- 40-46. 未使用。
47. お客様は、お客様のエンドユーザーに対し、Esri File Geodatabase API を使用する付加価値アプリケーションを開発および配布することができる。
- 48-53. 未使用。
54. 未使用。
- 55-63. 未使用
64. Web 配布用の付加価値アプリケーションは、他の Esri 製品と併用しなければならない。他の Esri 製品と常に併用する場合に限り、付加価値アプリケーションに第三者の技術をあわせて使用することができる。
65. 他の Esri 製品と併用してのみ使用できる。ArcGIS Earth と他の Esri 製品を常に併用する場合に限り、ArcGIS Earth とともに第三者の技術も使用できるものとする。
66. 有効な ArcGIS Online サブスクリプションのあるお客様のみ、World Geocoding Service が作成した地理座標結果を保存することができる。
67. ジオコードは、年間サブスクリプションにつき、2億5千万（250,000,000）件に制限される。
68. お客様は、Infographics サービス経由でアクセス可能なデータを表示目的にのみ使用できるが、これを保存することはできない。
69. お客様の組織におけるビジネス目的での使用が許可される。
70. お客様の組織における開発およびテストの目的での使用が許可される。
71. 教育機関における教育目的での使用が許可される。
72. 認定された NGO/NPO 組織の便益を目的とした使用が許可される。
73. 報道機関の便益を目的とした使用が許可される。
74. 個人使用目的での使用が許可される。
75. 共有ツールを使用して公的に共有することによってのみ、お客様は第三者による付加価値アプリケーションの使用を許可することができる。お客様は、自らの業務上の使用を目的として付加価値アプリケーションを稼働させるために本サブスクリプションを使用することはできない。ただし、お客様が、教育目的に限定して付加価値アプリケーションを使用する教育機関、認定された NGO/NPO 組織、またはメディアあるいはプレス機関である場合を除く。
76. お客様は、プライベート グループの作成またはプライベート グループへの参加を許可されない。
77. お客様が第三者に対して付加価値アプリケーションを有償で使用できるようにできる、商用アプリデプロイメントライセンスを含む。
78. お客様は、このサブスクリプションを使用して、プライベート グループの作成またはプライベート グループへの参加ができる。
79. 月あたりのジオコーディング トランザクション件数は、サブスクリプションにつき 100 万（1,000,000）件に制限される。トランザクションには、Basemap データとジオコーディングの両方のトランザクションが含まれる。Basemap データは、256x256 タイルリクエスト 8 件につき 1 トランザクションとカウントする。ジオコーディングは、1 つの住所または場所ごとに 1 トランザクションとカウントする。バッチ ジオコーディングの結果を保存する場合など、保存された結果はトランザクションの上限カウントには含まれない。ただし、保存のためのストレージはサービス クレジットを消費する。
80. 登録された教育機関の学生に対し、教育目的に使用する場合に限り、1 つのサブスクリプションを複数の登録された学生で共有し、Online Services に直接アクセスすることができる。
81. お客様は、付加価値アプリケーションを第三者に有償で使用させることはできない。

82. 特定の指定ユーザーのみが使用するワークフローを自動化しようとする場合に限り、当該指定ユーザーの資格情報を ArcGIS API for Python の自動化スクリプトに組み込むことができる。
83. お客様は、お客様のクライアント（以下「クライアント」）ごとに独立した AEC Project Delivery Subscription を使用しなければならない。お客様は、(i) AEC Project Delivery Subscription をそのクライアントとプロジェクト作業で協働することのみを目的として使用し、(ii) お客様がクライアントのために遂行するプロジェクト作業で、クライアントが AEC Project Delivery Subscription にアクセスして協働できるように、AEC Project Delivery Subscription への指定ユーザー アクセスをクライアントに提供できる。クライアントは、それ以外の目的で指定ユーザー ライセンスを使用することはできない。お客様は、クライアントによるこれらの利用条件の遵守について一切の責任を負い、プロジェクト終了時には、クライアントに AEC Project Delivery Subscription の使用を確実に停止させるものとする。
84. Deployment License は含まない。
85. ArcGIS Hub に付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションは、ArcGIS Hub が有効にしたコミュニティイニシアチブをサポートするためにのみ使用できる。お客様は、第三者に、コミュニティ活動への参加のみを目的として ArcGIS Hub の指定ユーザーになることを許可できる。お客様は、従業員、代理店、コンサルタントまたは委託業者に、ArcGIS Hub からコミュニティイニシアチブを管理、構成、維持およびサポートすることのみを目的として ArcGIS Hub の指定ユーザーになることを許可できる。ArcGIS Hub に付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。
86. お客様は、ArcGIS Indoors に付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションを、ArcGIS Indoors ドキュメントで定義した ArcGIS Indoors の機能を有効にするためにのみ、使用できる。ArcGIS Indoors に付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。